

がんぼう
麒麟の願望

加羅古呂庵 一泉

2021.4.18 作曲

麒麟の願望

齊藤 博 氏のご依頼により作曲した尺八と箏の二重奏曲です。

「首を長くしてなんでも待っている自分。」「麒麟のように少しずつ自分の届かないものに届くように、努力をしたいということ。でも、自分の首はなかなか伸びない。だから、麒麟のようになりたい、願望です。」とのことでした。

アフリカで暮らす麒麟は、オスで5 m前後、メスで4 mちょっとの高さがあり、薄明薄暮に主にアカシア属・シクンシ科などの木の葉を食べ、昼は反芻して過ごします。葉から摂る水分のみで、水を飲まなくても生きていくことができるそうです。およそ 120 平方キロメートルくらいが行動範囲で、時速 50~60km で走ることができるということです。

私たちが目にすることができるのは、動物園の麒麟。思い切り走れる場所もなく、ちょっとかわいそうな感じもします。動物園の麒麟が、遠いアフリカの大地に想いを馳せている設定で、「薄明」→「憩い」→「草原の夢」→「薄暮」という章立てにしました。「憩い」では、首を長くして「自分の届かないものに届くように」大甲のレ (A6) を使ってみました。

実際の麒麟は、高い木の葉を食べては、のんびり歩いていました。優しいような顔をしていました。